

オオムラサキが舞う里山空間実現にむけて

足立隆昭

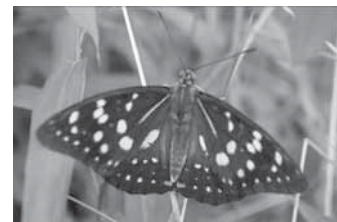
(兵庫丹波オオムラサキの会)

はじめに

兵庫丹波オオムラサキの会は、「国蝶オオムラサキ」が飛翔する空間と自然豊かな丹波の里山文化を創造することを目的とし、河合雅雄氏を名誉会長に迎え2011年に設立された。現在は会員数104名、その多くが篠山市、丹波市に在住である。

なぜオオムラサキを

丹波地域に棲息する国蝶であり準絶滅危惧種で、ステータス性も高い子供たちがオオムラサキを通じて自然と親しむ糧とする里山にふさわしい生き物である
丹波の森公苑に飼育に取り組める環境があり、協力が得やすい一年一世代で、年間通して調査や観察できるなどの理由から丹波の里山文化を創造するシンボルとした。



活動の趣旨

目標：つくろうオオムラサキが舞う里山空間

活動：小学校を核としてその地域に広める

活動のしくみ：オオムラサキのトライアングル

オオムラサキのトライアングル



具体的な活動と成果

- 1 飼育展示活動：丹波の森公苑のオオムラサキ事業を支援する
丹波産オオムラサキの飼育増殖と展示 放蝶会の実施
成果 丹波産越冬幼虫 3000 匹確保（小学校、企業、大学に提供）
オオムラサキ観察会、見学者の来苑が年間約 2000 名以上
放蝶会が恒常化（毎年七夕前後日曜日 150 ~ 200 名の参加）
- 2 調査活動
エノキ・クヌギの分布を調査マップ化し、把握したエノキで越冬幼虫を探索する
成果 エノキ：篠山市 70 本
丹波市 108 本
を把握マップ化
越冬幼虫：篠山市 6ヶ所
丹波市 2ヶ所
で発見



3 啓発活動

小学校に飼育展示の勧誘と支援（飼育指導、出前授業、簡易ケージの提供、エノキ・クヌギの植栽と提供）

「国蝶・オオムラサキ」冊子作成し飼育小学校、見学者に提供

成果 41 小学校中 17 校で飼育、他に 1 高等学校、3 企業、2 団体から要請を受け支援した篠山小学校は環境教育実践発表大会でオオムラサキの飼育観察活動と地域との連携活動が評価されグリーンスクール表彰と代表発表校に選ばれた氷上西高等学校もグリーンスクール表彰されたダンロップスポーツ（株）市島工場が近畿産業通産局賞を受賞



篠山小グリーンスクール表彰校
代表発表



4 交流活動：内にモチベーションの高揚 外に情報提供 ウィーン 13 区との交流

20 周年イベントとしてウィーン 13 区からオオムラサキ親善の提案を受け、世界最古のシェンブルン動物園での飼育に前向きに取り組んでいる。

5 大学と連携：京都大学&神戸大学

成果 京都大学 オオムラサキの産卵刺激物質を特定

Celtis sinensis と *C. australis* 両方から産卵刺激物質を確認

神戸大学 越冬幼虫の過冷却点の測定（- 20 ）

DNA 鑑定 丹波産 檀原産 府中産（広島県）は同じであった

C. australis に産卵刺激物質が確認され、過冷却点 - 20 を測定判明したことはウィーン交流を前進に導く

人と自然の博物館 檀原昆虫館

「国蝶・オオムラサキ」冊子の監修他

各地オオムラサキセンター

北杜市オオムラサキセンター 栗山ファールブルの森 府中オオムラサキセンター

飼育に関する情報交換



まとめと考察

オオムラサキの生息環境の劣化が進行しているが、その要因は下記のような里山の変化ではないかと考えられる。

- ・エノキの極少化：造林拡大計画 エノキ伐採と放置林
- ・クヌギの極少化：化石燃料普及 カシノナガキクイムシ（ナラ枯れ）

荒廃した里山は、オオムラサキの命を刻み、命を繋ぐことを阻むことによって、人々に警告を示唆しているのではないだろうか。

これらを阻止するため、再びオオムラサキが舞う里山空間の実現にむけて次のように取り組んでいる。

オオムラサキのトライアングルを促進する

オオムラサキの極少化を防ぐため生息環境の調査と整備を行う

造林拡大計画による針葉樹編重の森に、オオムラサキの食樹であるエノキとクヌギの植栽を推進する